

## I 学校の概要

学習意欲向上モデル校事業

# 多度津町立多度津中学校

### ◆児童生徒数及び教員数

○生徒数

第1学年	第2学年	第3学年	特別支援	全校
6学級 178名	6学級 182名	5学級 171名	3学級 9名	20学級 540名

○教員数 40名

### ◆学校の特徴

多度津町は穏やかな気候・風土に恵まれ、人の暮らしや心の在り様が安定しており、その中で育った生徒たちは純朴で、学校の授業を大切にして学習すること、仲間や教師と良好な関係を築きながら学校生活を送ることができている。しかし、生活習慣や規範意識に課題があり、問題行動を繰り返す生徒も少数見られる。また、課題が顕在化してはいないが、よいことをしよう、よくないことを改善しようとする行動や意欲が見えない生徒も見られる。それらは、家庭の問題など様々な背景にも要因があると考えられるが、個に焦点を当てると、「生活習慣に課題がある」、「自分に自信がもてない」、「他者を信じる力が弱い」、「自立心が乏しく協働することの価値に気付かない」、「学ぶ力が身に付いていない」ことにあると考えられる。

学校教育目標「チャレンジ精神をもち、共に未来を創造する生徒を育てる」の下、全教職員で、教育活動全体を通して一層の工夫・改善を進めている。

## II 研究主題等

研究主題

# 生徒が主体的に学び、学びの成果を実感できる授業づくり

### ◆研究主題設定の理由

平成29年度の実践の成果として、県学習状況調査の生徒質問紙で、「話し合う活動を行っている」「振り返りの場を設ける」項目について、肯定的評価が県平均を上回るなど、「学び合い」「振り返り」の場の設定は定着してきている。一方で、「授業は楽しいと思う」の項目において、肯定的評価が県平均を下回るなど、生徒が意欲をもって主体的に学ぼうとする力が弱いと言える。また、教師アンケートから、生徒一人一人が興味・関心をもって主体的に取り組む授業づくりや、生徒自身が学びの成果を実感できる振り返りは十分でないと感じていることがうかがえる。そこで、「生徒の興味・関心」「学習意欲喚起」をキーワードに、教員が協働体制で授業改善に取り組むことが重要であると考え、本研究主題を設定した。

### ◆研究内容及び方法

- 1 教科を超えた汎用的な授業づくり
  - ・学習指導過程の共通実践
  - ・学習指導案の法則化
  - ・生徒同士をつなぐ「学び合い」の日常化
- 2 見通しをもった研究体制づくり
  - ・全教員年間2回以上の公開授業計画（4月下旬に決定）
  - ・「香川の教育づくり発表会」を活用
  - ・研究成果をつなげる、校内研修のサイクル化

### III 研究実践

#### ◆指標設定と達成に向けた取組

##### 1 主体的な学びを実現する授業づくりに向けて

(生徒質問紙) 授業は楽しいと思えますか。  
(教師質問紙) 生徒の興味・関心を高める学習課題の設定を工夫していますか。

##### 重点となる指標

(生徒質問紙) 「授業は楽しいと思えますか。」(①思う+②どちらかといえば思う)の合計



(教師質問紙) 「生徒の興味・関心を高める学習課題の設定を工夫していますか」  
(①できている+②どちらかといえばできている)の合計

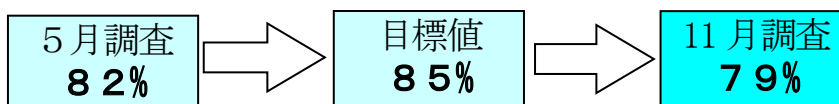


##### 2 学びの成果を実現する授業づくりに向けて

(生徒質問紙) 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、  
深めたりすることができていますか。  
(教師質問紙) 生徒が学びの成果を実感する授業を工夫していますか。

##### 重点となる指標

(生徒質問紙) 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、  
深めたりすることができていますか。」(①できている+②どちらかといえばできている)の合計



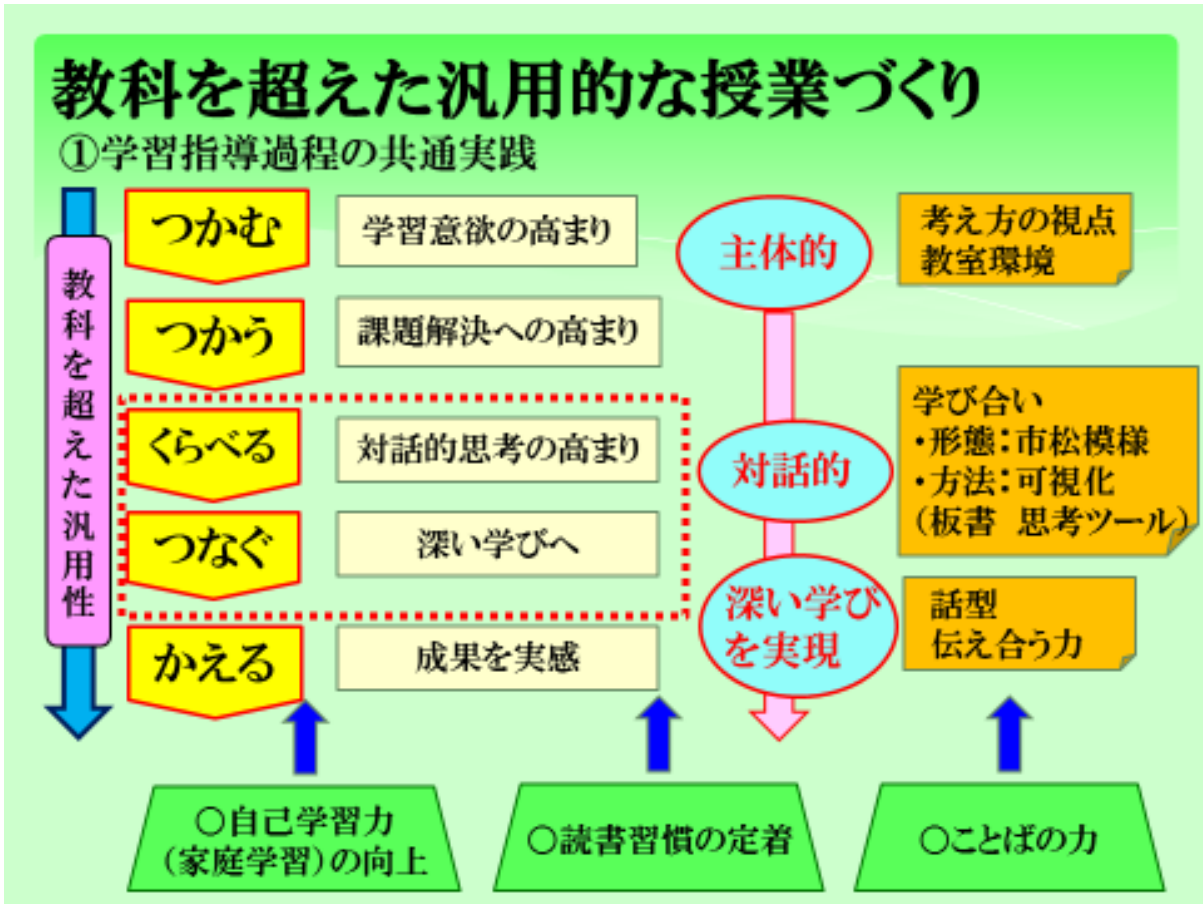
(教師質問紙) 「生徒が学びの成果を実感する授業を工夫していますか」  
(①できている+②どちらかといえばできている)の合計



#### ◆目標達成に向けた実践

##### 1 教科を超えた汎用的な授業づくり

教師全員が、共通した学習指導過程を実践する。また、授業では生徒同士をつなぐ「学び合い」を日常的に行うよう工夫する。さらに、法則化された共通の学習指導案を用いることで、研究授業後の授業討議において、教科や学年の枠にとらわれない話し合いが可能となる。



## ② 学習指導案の法則化

**【教師の資質向上】  
確かな説明力**

- 単元（題材）観について
- 学習指導要領との関連
- 付けたい力
- 単元（題材）の価値

**生徒観について**

- 付けたい力に関する現状
- 本学級の関心・意欲

## ③ 生徒同士をつなぐ「学び合い」の日常化

ホワイトボードの活用

市松模様の席

ICT機器の活用

高さのそろった机

## 指導観について

**● 具体の大きい (全体的な) 支援から  
具体の小さい (部分的な) 支援へ**

(3) この単元を指導するにあたって、次の点に留意したい。

- 教師ができるだけ英語を用いることで、生徒の英語使用への抵抗感をなくすとともに、できるだけ多く生徒が英語を使う場を設定する。さらに、英語を積極的に使おうとする態度をその態度評価する。
- ペアワーク、グループワークなどの学習形態を適宜取り入れることで、互いに教え合い・学び合う習慣を身に付け、コミュニケーション能力の育成を図る。
- 書く際に、掲載を重ねる中で、徐々に伝える内容を整理していくことは重要なので、最初から内容が豊かで正確な英語使用を求め過ぎないよう配慮する。

○授業の最後に AIJF の自己紹介を聞き、次時には生徒たちがクラスの前で自己紹介をするという目標を与え、主体的に取り組む姿勢を促す。

○自分で考えた自己紹介を友だちと発表し合い、助言し合う活動を通して、自分の紹介文のよい点や工夫した方がよい点に気づき、よりよい自己紹介文を作る。

○生徒の主体的な学びを実現する工夫  
○学びの成果を実感する工夫

3 自己紹介を行う。

- (1) 各自で練習する。
- (2) ペアで発表練習をする。
- (3) 班内で発表する。

・What sport do you like?  
は自分も使えそうだ。  
・友だちの目を見ながら発表するの苦手だな。  
・相手に聞こえる大きな声で言っているな。

助 「発表する時には、評価規準を意識して発表しましょう。」  
○ペアの発表を Shadowing しながら聞かせる。  
○自己紹介の中にある質問に、発表後答えさせる。  
○回数を重ねるごとに、よりよい発表になるよう評価項目を意識させる。  
○途中で、困っていることやよい発表を紹介する。たくさんほめる。  
○発表を聞いて、よい点や工夫した方がよい点をカードに書かせる。

※カードを参考に、自己紹介を推敲する。  
・Are you a "happi" なし、疑問文を入れよう。  
・たくさんの種類の一般動詞を使おう。

まとめ 友だちと自己紹介し合い、よりよい発表に気付くことができよう。

「学び合い」を行う場面を囲む  
○生徒の主体的な学びを実現する工夫  
○学びの成果を実感する工夫

## 2 見通しをもった研究体制づくり

全教員が年間2回以上授業を公開し、研究に向けた取組を実践発表する。その際、外部講師（指導主事）を招いて、研究協議を行う。討議にあたっては「主体的な学びを実現する授業づくりに向けての工夫」「学びの成果を実現する授業づくりに向けての工夫」はどうであったかという研究テーマに対して、KJ法を用いて話し合いを行う。

6月と11月に研究授業を行い、12月の香川の教育づくりを活用して研究の取組を発表し、3学期に研究の検証を行い、研究成果と課題を焦点化して次年度へつなげる。

### 2 見通しをもった研究体制づくり

一人2回以上の授業公開計画→4月25日決定  
見通し、効率的、意図を明確に授業改善

◎「香川の教育づくり発表会」を活用

平成29年度～	平成30年度～
4月末 年間計画 4/26	4月末 年間計画 4/25
1学期 授業公開① 6/14	1学期 授業公開① 6/14
1学期 要請訪問 6/26	1学期 要請訪問 6/21
11月 授業公開② 11/15	★人権・同和教育研究会 11/21
発表資料準備 11/16～	11月 授業公開② 11/22
香川の教育づくり発表会 12/27	発表資料準備 11/23～
1月～まとめ、次年度構想	香川の教育づくり発表会 12/27
	1月～まとめ、次年度構想

成果をつなげる

研究成果⇒焦点化    計画→実践→まとめ→検証・改善

### ◆特徴的な取組

#### 1 主体的な学びを実現する授業づくりに向けての実践

##### 理科

#### 「つかむ」の場で、生徒の主体性を引き出した、2年生理科の実践

日常生活の中で利用されている冷却パックが冷たくなるしくみを解明するために、「冷却パックが冷たくなるしくみを一人一人が説明できること」を目標に取り組んだ。主体的に考えさせるためには、生徒が考えたいような課題であること、学習する化学変化が日常生活の中で利用されていることに気付かせることが必要であると考え、考えたい教材・教具を工夫した。

本時は発展的な内容であるが、温くなる化学変化である化学カイロの仕組みを学習していたので、その場合と比較しながら、班毎に実験を進めながら具体的に考えることができた。また、いつも気にせず利用している、冷却パックを開封してみたり、中に入っている物質を観察しながら触ったりすることで、身のまわりに当たり前にあるものを、科学的に見る視点を持たせるきっかけになった。

### つかむ 考えたい教材・教具の工夫

理科[2年]    単元: 化学変化とその利用

主体的に学ぶ姿    冷却パックがひんやりするのはなぜ?

日常生活とのつながり

水、尿素、硝酸

パッケージの裏を見ると、中に入っている物質が書いてあった!

袋から出して観察することで、物質どうしが反応していることを実感

白い粒が水に溶けたよ!

どうして冷たくなったの?!

##### 数学科

#### 「つかう」の場で、課題解決への高まりが見られた、2年生数学科の実践

「連立二元一次方程式」において、学習指導要領のA数と式「(2)連立二元一次方程式について理解し、それを用いて考察することができるようにする」ことをねらいとして三元一次方程式を含む発展的な課題を取り上げた。

「□と□の和が○の値と等しくなるように、□にあてはまる数を見つけよう」と問いかけると、クイズを解くような感覚で各自が課題解決に向けて思考を始めた。

しかし、○や□の数が増えることで、適当に数を当てはめるだけでは解決できなくなり、文字を使うことで解決することに気付く生徒がいた。文字をいくつか使えば解決できるか、既習事項を使いながらグループで課題に取り組んだ。課題を把握し、自分の意見や疑問をもち、一人では解決できないから友達と意見交流したいとの必要感をもって、主体的に学ぶことができた実践である。

### つかう 考えたい教材・教具の工夫

数学科[2年]    単元: 連立二元一次方程式

課題解決への高まり    □にあてはまる数を求める方法を考えよう

既習事項を使って少し難しい課題に挑戦

文字1つ  
一元一次方程式(1年)

文字3つ  
連立三元一次方程式

適当な数をあてはめるのは大変だ

文字を使ってみよう

文字2つ  
連立二元一次方程式(2年)

友達の考えを知りたい

## 音楽科

### 「くらべる」の場で、対話的思考へと展開できた、2年生音楽科の実践

ムソルグスキー作曲「展覧会の絵」の中の4つの組曲を題材に、音楽と絵画を結び付けようとする活動。音楽を形づくる要素の中でも、音色、速度、強弱という生徒にとってより聴き取りやすい観点に着目させ、それぞれの音楽の特徴を、明確につかむことができたようにした。

まず、個人で特徴をまとめ、それを基にペアから4人班へと学習形態を変化させた。その際、曲想表現を整理して書き出せる思考ツールを活用することで、気付いたことや感じたことを一人一人がワークシートに自分の言葉で記入し、自信をもって学び合い学習に参加する姿が見られた。

**くらべる 活動するための学習形態を工夫**  
音楽科[2年]

題材：絵画と音楽の特徴を聞かせ、「展覧会の絵」の魅力を味わおう  
班で協力して、絵画と音楽を結び付けよう！

①聴きとったことをまとめる  
②絵画と音楽の組み合わせを考える

個人で → ペアで → 4人班で

曲想のヒントカードを基に、気付いたことや感じたことを記入する。  
「音色・速度・強弱」の観点に着目  
音楽をタブレットで再確認  
対話的思考の始まり

自分と友達のを比べる

## 国語科

### 「つなぐ」の場で、主体的に表現する姿が見られた、3年生国語科の実践

単元名「言葉を見つめる『俳句の可能性(山頭火より)』」。言葉がもつ価値を認識したり、表現したりすることで言語感覚を豊かにする授業を行った。本時は山頭火の「分け入つても分け入つても青い山」という形式が特徴的な自由律俳句を取り上げたり、「ても」と「青い山」の言葉に注目させたりすることで、主体性を高めた。

学び合いの場面では俳句から見える情景と心情を班ごとでホワイトボードにまとめさせ、徹底して可視化することで、言葉の共有化を図った。そのため、お互いの考えを確かめながら、主体的に自分の考えを表現する姿が見られた。

**つなぐ 言葉の力を実感させる工夫**  
国語科[3年]

単元：言葉を見つめる「俳句の可能性(山頭火より)」  
山頭火は一人旅を楽しんでいるのだろうか  
可視化による言葉の共有化

本授業の付けたい力  
言葉がもつ価値を認識したり、表現したりすることで言語感覚を豊かにする

生徒が主体的に学ぶ姿

「分け入つても」を二回繰り返して読むことは、歩き続けるけれど、何も変わらない状態ってことだね。

## 社会科

### 「つなぐ」の場で、深い学びを実現した、2年生社会科の実践

単元「貨幣経済の進展と讃岐の近世社会～地方史料からみる江戸時代の経済～」において、地域史の学習を通して時代の特色を多面的・多角的に考察する授業。「つなぐ」の場は、「本当に引田は貧しかったのか」の学習課題について考えを深める場面である。生徒たちは、江戸時代は、重い年貢の負担で百姓の暮らしは苦しいと学習している。導入で、そのことを想起させるよう、幕末に引田で年貢米が納められず年貢を帳消しにしてくださいと百姓が訴える資料を読み取らせた。

しかし、実際は、百姓は貧しいはずなのに、米を買って年貢米を納めていた。そこで、二つの資料を示し、それぞれの資料から分かることを読み取らせた。一つは、引田の港で米や大豆が盛んに取引されている資料。もう一つの資料は、砂糖づくりが盛んに行われていることが読み取れる資料。

4人班で、それら二つの資料を関連付けて課題に対する答えを考えさせることにより、生徒たちは活発に考えを出し合い、「引田村」は経済活動が盛んであり、実は貧しくなかったことに気付いていった。「謎解きをする探偵のような体験だった」と感想を述べる生徒もおり、授業を通して深い学びが促進されたことがうかがえた。

**つなぐ 考えるための教材を工夫**  
社会科[2年]

単元：貨幣経済の進展と讃岐の近世社会  
本当に引田は貧しかったのか？

①二つの資料を比較する  
②新たな事実気付く！  
引田村は貧しくなかった

全員が課題を解決できるように、資料の読み取りポイントを明示しておく

農民が、米を買っている！実は砂糖作りが盛んだ。

地域資料を協働して読解

どういう意味があるのだろうか

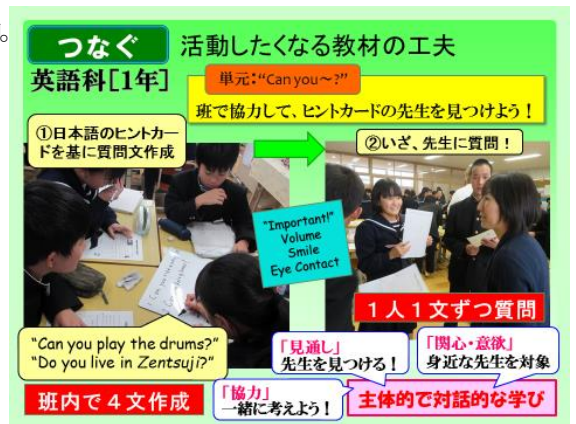
事実から原因を考える  
深い学びを実現

## 英語科

### 「つなぐ」の場で、主体的で対話的な学びを実現した、1年生英語科の実践

Can you ~?を使って、自分の班のお目当ての先生を探す活動。本時では、日本語で書かれた、ある先生のヒントカードが与えられ、班ごとに今まで学習した英文を使って質問し、目当ての先生を見つけ出すことを目標に取り組んだ。

まず、日本人教師とALTがある先生を例にモデルを示し活動のイメージをつかませた。大好きな先生方を見つけるという目標により、生徒達の目が一気に輝き、最後まで意欲的に取り組むことができた。Can you ~?を学習した直後だが、Can you ~?の質問文だけではなく、今まで学習した”Do you ~?” ”Are You ~?” の文も用いて質問文を完成させるように工夫した。そうすることで、4人班で質問文を作ったり、読み方を友達に聞いたり、終始協力して主体的に取り組む生徒の姿が見られた。



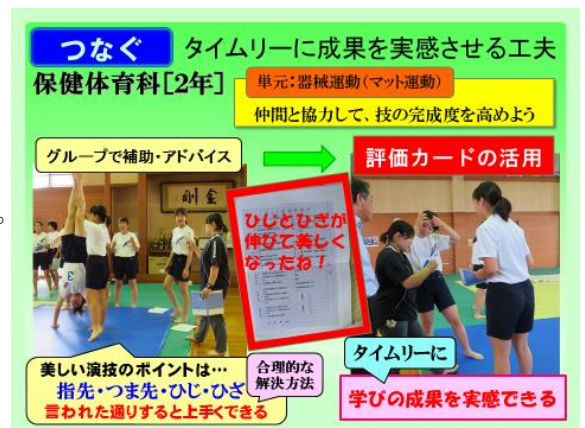
## 2 学びの成果を実現する授業づくりに向けての実践

### 保健体育科

### 「つなぐ」の場で、学びの成果を実感できた、2年生保健体育科の実践

単元名、「器械運動（マット運動）」。「動きのコツをつかみ、技の完成度を高めること」を目標に、倒立前転に取り組んだ。まず、美しい演技にするための合理的な解決方法を確認した上で、そのポイントを意識しながらグループごとに練習させた。

「くらべる」では、上手な生徒に模範演技を全体の場で行わせ、グループごとに自分や友達の演技について、振り返らせた。「つなぐ」の場面では、評価シートに互いの良かった点や改善点を記入させ、次の目標について互いに助言し合いながら考えさせた。教師は、演技した直後にそれぞれの評価カードをチェックし、タイムリーに、称賛や助言を行うことにより、生徒は「ここをこうすれば、できるようになる」という、合理的な納得感をもって、学びの成果を実感することができた。



### 道徳科

### 考え議論する道徳を通して、深い学びが実現した、3年生道徳の実践

主題名、C-11 公正、公平、社会正義、

中心資料は兵庫県人権啓発協会作成の平成26年度人権啓発ビデオ「あなたに伝えたいこと」

本資料の主人公「まお」は、結婚を間近に控えた女性であり、話が進む中で、自分の祖母や母が同和問題で辛い思いをしてきたことを知る。そこで、「まお」は交際相手に自分のことを打ち明けるかどうかを考えることを通して、差別される側の心情に寄り添って、差別を許さないとする心情を高めたり、不合理な差別に気づき、差別をなくすために自分は何ができるか考えたりする態度を養いたいと考え、本主題を設定した。

学び合いの場面では「打ち明けるか」「打ち明けないか」の立場を明確にして、4人班で話し合わせる。心情円盤を使って複雑な心境や心のゆらぎを可視化することにより、それを見ながら互いの考えを言い合うことができた。また、4人班は、両方の立場が混在するグループを意図的に作り、考えが深まるようにした。

生徒は、友達的心情円盤を指さしたり、自分のを動かしたりしながら、自然に話し合いが進んだ。最後に授業を振り返る場面では、深まった自分の考えを真剣に書く全員の姿が見られた。



## 理科

### 「かえる」の場で、学びの成果が実感できた、2年生理科の実践

実験で分かったことについて、班毎に話し合い、ホワイトボードに書いて発表させた。「混ぜたら急に温度が下がって冷たくなった」「反応したら常温から勢いよく温度が下がっていった」などの意見がみられた。

成果を実感させる手立てとして、生徒一人一人が「この授業で何を学んだのか」「この授業で何がわかったのか」を自分の中で整理し、それをアウトプットすることが有効であると考え、振り返りではワークシートに自分の言葉でまとめを書かせた。どのように書けばいいかわからず困ってしまう生徒もいるため、まとめに使えるような言葉を自由に発表させて板書し、キーワードをヒントとして示すことで、ほとんどの生徒が自分の言葉で書くことができた。「冷却パックの中の尿素と硝酸に水をかけると急激に温度が下がり、吸熱反応が起きた」「冷却パックに入っている物質が吸熱反応を起こしたため、急激に温度が下がった」など、学びの成果を実感するまとめが多く見られた。

**かえる** 理科[2年] 自分の言葉でまとめて、成果を実感  
課題: 冷却パックがひんやりするのはどうして?  
キーワードを参考に、自分の言葉でまとめよう  
学びの成果を実感 班で話し合っ実験結果を確認!  
学んだ内容 キーワードをヒントにして自分の言葉でまとめ  
吸熱・冷却パック・急激・水・尿素・硝酸・混ぜる・化学変化・・・  
学びの過程

## 社会科

### 「かえる」の場で、学んだ成果を実感し、新たな歴史学習の意欲を引き出した、2年生社会科の実践

この授業では、江戸時代は、「自給自足」が大前提の百姓でも、幕末にはお金を使って経済活動をしていたという事実が明らかになった。この農村の変化について、最後に「武士はどう感じたのだろうか」と揺さぶる発問を行った。

生徒の中には、「引田は地理的に恵まれているから商売が盛んになった」と気付く生徒もみられた。江戸時代は、幕府が「身分をわきましろ」と再三にわたりお触れを出して、農村での経済活動を禁止したため、百姓は武士に内緒で年貢米を買っていた。そのことから、貨幣経済が農村にまで進展することが、武士が中心の社会を崩壊させることにつながっていたという重要な思考にいたる生徒も数名いた。

また、「政治も経済によって左右される」というような見方を養うことが、深い学びへ結びつく授業になるとのご指導をいただいた。

**かえる** 社会科[2年] 学びの過程を振り返って、成果を実感  
単元: 貨幣経済の進展と顕微の近世社会  
本当に引田は貧しかったのか?  
学びの過程を可視化  
既習の知識 学んだ内容 学びの過程  
百姓 年貢一米 重い税負担 生活一苦しい 自給自足  
田舎屋敷 地味屋敷 田舎の改革 天保の改革  
農村は貧しい 地方でも貨幣経済が進展していた!  
引田だけ? 多度津は? 地域資料でよく分かった。おもしろい。  
年貢を納めさせるために米作りを農民にさせていたが、農民は商品作物を作る方が現金収入が得られるため、「豊か」なのに「年貢米」が足りなくなる農村が生まれたんだね。  
農村の変化を武士はどう感じたのだろうか

## 英語科

### 「かえる」の場で、学びの成果が実感できた、1年生英語科の実践

Can you ~?を使って先生方に質問した後、質問結果を英文でまとめ、班ごとにクイズ形式で発表する活動。先生方に英語で質問した後、質問結果を紹介文として肯定文でまとめさせた。Can の文だけでなく、3単元のsをつけなければならない文、be 動詞を使わなければならない文など、今まで学習した内容を組み合わせた内容であり、ミスも多くみられた。それらのミスについて、班員で考えながら正しい英文を作り直すことで、さらに学びを深めることができた。

最後には、生徒一人一人がALTにCan you~?を使って質問を行う場面を設けた。教科書の内容からCan you make a paper crane?と訊いたり、相手がALTだからこそCan you eat natto?と訊いたり、生徒がこれまでの学習内容を振り返り、工夫した内容を質問する姿が見られた。学んだ英語が通じたと実感できて嬉しそうな生徒の姿がみられた。

**かえる** 英語科[1年] ALTに質問することで成果を実感  
単元: "Can you ~?"  
質問内容を班で発表 & ALTに質問しよう!  
①質問結果をまとめる ②ALTに質問しよう!  
1人1人が質問する場  
She can play the drums. She is good at arm wrestling. She likes blue.  
Can you make a paper crane? Can you eat natto?  
学んだ英語が通じたと実感

## IV 研究の成果と課題

### <成果>

- ・研究に沿った授業づくりの日常化が進んでいる。  
重点となる指標の教師アンケート「生徒の興味・関心を高める学習課題の設定を工夫していますか」(56%→69%)、「生徒が学びの成果を実感する授業を工夫していますか」(59%→69%)の項目で、肯定的に答える教師の割合が増加している。
- ・指導案の法則化が進み、教員間の議論が深まっている。  
研究授業後の討議には全教員が参加し、研究テーマに基づいてKJ法を用いて活発な討議が行われている。また、討議後には「現教だより」を配布し、全教員が討議内容を共有できるようにしている。

「香川の教育づくり発表会」でのご意見

- ・教員全体が同じ意識で、学校全体で取り組んでいるということを感じました。
- ・学校全体で考え、一緒に進もうとされる姿が感動しました。
- ・校長先生を中心に、学校全体が「やる気」「元気」「明るさ」に満ちあふれているのを、教職員の姿から感じました。

- ・主体的に学び、成果を実感する生徒が増えている。  
重点となる指標の生徒アンケート「授業は楽しいと思いますか。」(75%→75%)、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりすることができていますか。」(82%→79%)の項目で、肯定的に答える生徒の割合はほぼ同程度である。1・2年生の学習内容が難しくなること等を踏まえると、生徒の意識の変化からは成果が感じられる。

「香川の教育づくり発表会」でのご意見

- ・道徳科の心情円盤→班構成を変えての話し合いは、色々な立場の意見が聞けて、考えが深まり良いと感じた。
- ・マット運動の授業で、倒立前転を練習した後、評価カードに記入し、助言や称賛を行うことは非常に良いと思った。タイムリーに成果を実感できる工夫を真似したいと思う。
- ・どの教科も、主体的で生徒一人一人が学んでいる実感を得られる授業を実践されていると感じた。  
英語科の授業で、生徒が試行錯誤しながら英語を考え、ALTの先生に一生懸命に話し、英語が通じる喜びを得させていたのがとても印象的でした。
- ・2年理科「キーワードをヒントにして自分の言葉でまとめる」ところが特に良いと思った。
- ・子ども達が主体的に学ぶための課題の設定や必要感のある学び合い活動など、自身の授業改善にぜひ取り入れたいと感じました。

### <課題>

- ・研究に沿った授業づくりの日常化が十分とは言えない。  
重点となる指標の教師アンケート「生徒の興味・関心を高める学習課題の設定を工夫していますか」「生徒が学びの成果を実感する授業を工夫していますか」の項目で、目標の100%が達成できなかった。
- ・汎用的に活用できる手法の質と量が十分ではない。  
今後も各教科で取組を続け、汎用的に活用できる手法を明らかにし、類型化していきたい。
- ・生徒の言葉の力が十分には身に付いていない。  
言葉の力は思考を深めるための基盤であるが、本校の継続的な課題である。話型や伝え合う力について職員で共通理解を深め、今後の実践に結び付けていく。